

1. 総括

帰国してから3週間が過ぎようとしている。今頃になってようやく「ホンマに砂漠に行って来てんな。」「スゲェ、ええところやったな。」という実感が湧いてきた。慌ただしく準備し出発したせいか、頭が悪いせいか、今自分の置かれている状況が実感できないまま砂漠入りした。気がつけば遠征も終盤を迎え、残すところあと3~4日となっていた。それまで、ボーッと過ごしていたわけではないが、私の掲げたテーマが漠然としていたからか（テーマ：「厳しい自然の中で強く生きる人々」）、いまいち「砂漠の中でこれだけはやった。」と自信をもって言えるものを掴みきれなかった。当初、「砂漠で自分にできること」「自分にしかできないこと」は「撮影」しかないと思い、とにかく撮りまくってやろうと心に決めていた。実際はかなり撮ったのだが、抽象的なテーマではなくて具体的なテーマ、例えば「ウイグル人の一日」を30日間徹底して追うという風に取り組んだほうがもっと面白い写真が撮れたのではないかと思うのである。ホータンまであと3~4日というところまで来てようやく、具体的なテーマが見つかり（テーマ：砂漠の植物の徹底追求）、それに没頭したが時間がなく完全なものにはならなかった。

我々探検部の活躍するフィールドは素晴らしい景観の横たわるところばかりである。素晴らしい景観の下では撮影者の技術云々に関係なく素晴らしい写真が生まれることが多い。つまり、そういう場では万人がイイ写真を撮れるのだ。「撮影係」という役割について考える時、どれだけ具体的なテーマに絞って撮れるかということが重要である。ただ気の向くままに撮るだけでは、誰にでもできることである。そして、そこには「撮影係」の存在意義はない。ただ、私の撮ったものも、その誰にでも撮れる写真ばかりなのだが・・・。

今遠征を経験して、口で言うのは簡単であるが「具体的なテーマ」を持つということが撮影係にとっていかに重要なことであるかが身に染みてわかり、良い勉強になった。



ロバ車の女の子

2. メンテナンスの方法

砂漠は、撮影するのに最悪の条件である。ちょっと強い風が吹けばたちまち砂塵が機材に付着する。皆、

カメラ用のウエストポーチにカメラを入れ、撮るときだけ取り出すようにしたが、わたしは「カメラジャケット」なるものを持っていたので30日間行程中絶えずカメラを砂にさらしていた。その結果、ウエストポーチに入れながら使用したカメラ1台とレンズ一体が故障した。レンズは私が使用していたものでズームレンズ故にやはりズーム面に砂が噛み、侵入しピントがあわなくなった。カメラはNEW FM2が故障した。突然シャッターが下りなくなり使用不能となったが、これも心臓部に砂が侵入して故障したものである。

メンテナンスは毎晩砂塵の少ないテントの中で丹念に行ったが、結局は故障する機材が出た。今後、砂漠撮影に臨む場合の対策として、「サランラップ」をあらかじめ、カメラに巻きつけておくのが良いだろう。そして、なるべくウエストポーチか何かにしめておき、必要なとき以外は出さないということ、さらに、メンテナンスは毎日しっかりやること、この4点を完璧に熟せば機材の故障は防げるはずである。今回の故障は、どれも4点のうちの1~2点が欠けていたために起こったものである。

最後になりましたが、ご協力いただいた関係者各位に心より感謝申し上げます。